

YWVOB 会 会報 No.84

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

2023 年 8 月 20 日発行 <https://ywvob-hp.jpn.org>



～ 84 号の目次 ～

・YWVOB 会長ご挨拶	1	・苗名小屋便り	10
・2024 年度 OB 総会案内	2	・自由投稿①「百名山の思い出 その2」	12
・2023 年第 2 回役員会報告	3	・自由投稿②「山を繋ぐ楽しみ」	15
・2023 年第 3 回役員会報告	4	・再入会	19
・OB 会費納入のお願い	6	・自由投稿③「羅浮山初登頂」	20
・2024 年度 OB 会費納入済会員リスト	7	・現役部員の活動紹介	22
・第 67 回 OB 山行報告（石老山）	8	・観天望記（編集委員会から）	23
・第 68 回 OB 山行案内（金峰山）	9		

■ YWVOB 会長ご挨拶

会長 西田雅典 (20 期)

皆様、残暑お見舞い申し上げます。いつも OB 会活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。米国海洋大気庁によれば 50℃レベルのヒートドーム現象は 1000 年に 1 度ですが、CO2 排出が継続するとこの現象は 2050 年までに 2～7 倍になると予測している記事を見ました。また、第 9 波に入ったコロナもマスク自主判断になり、猛暑の中でも外出、旅行、懇親会も活発になりつつあります。注意して楽しみたいものです。

今年の OB 総会は 9/17(日)に、4 年ぶりに常盤台キャンパス (WEB 参加可) で横国 DAY (ホームカミングデー) に合わせて、理工学部講義棟にて実施の予定です。ワンゲル展示会も現役と共同で行います。そのあとに第 2 食堂で横国 DAY 交流会もあります。ぜひ総会へお出かけ頂ければと存じます。ついでに部室 (以前と同じサークル棟 2F ですが以前の反対側に移動) を覗いてください。

OB 会活動は 9 月総会、10 月 OB 山行、11 月山小屋整備、会報発行、新 HP 活用、メルマガ発行、部史編纂推進と引き続き行ってゆきます。関係者の尽力で毎年快適になっている山小屋を久しぶりに訪れてはいかがでしょうか。

現役とのコンタクトの機会も増えています。現役は部員数が 4 年 5 人、3 年 10 人、2 年 15 人、1 年 30 人と大所帯になっているとのことです。この夏合宿は 7～8 月にグループ形式で、立山、北岳・間ノ岳、雲ノ平、白馬、富士山、槍ヶ岳、トムラウシ、妙高、裏銀座などで実施されています。現役の小屋の利用も近年増加しています。

活動について、ぜひ忌憚ないご意見をお寄せいただければと存じます。また OB 会役員会の活動に隙間時間にでもお手伝い頂ける方は、ぜひご連絡お願いいたします。猛暑が続きますが、皆様とご家族のご健勝をお祈り申し上げます。



■ 2024 年度 OB 総会案内

総務委員長 竹村 昇 (13 期)

2024 年度 (2023/10-2024/9) YWV OB 総会招集ご通知

会長 西田雅典

日 時：2023 年 9 月 17 日 (日) 12:00～13:00

開催場所：横国大常盤台キャンパス理工学部講義棟 A110 会議室 (100 名収容)

開催方法：実開催および ZOOM によるオンライン参加 (ハイブリッド方式)

議 案：＜報告事項＞ 監査報告、活動報告、仮決算報告、会員入退会

＜決議事項＞ 2024 年度活動計画、予算案、役員改選：44 人の役員のうち 25 人改選

今年の YWVOB 総会は、常盤台キャンパス開催の横国 DAY と 4 年ぶりの同時開催となります。
また、第 8 回「ぼうさいこくたい (出展者は全国防災関連組織)」が 9/17～18 に常盤台キャンパスで開催されます。

OB 総会に先立って 11:00 から現役と共催でワングル展示会 (OB・現役活動の写真や現役のテントの展示) も行います。また 14:30 からは第 2 食堂で横国 DAY 交流会 (自由参加) が行われます。

さらにその後ワングルで懇親会を別途計画中です。久しぶりのリアル開催であり、ぜひ皆様、ご参加ください。

■OB 総会参加手続き (①Google フォームでのご連絡、または、②ハガキでのご連絡)

①Google フォームでのご連絡の方

- ・参加手続き (実参加かオンライン参加かなど) 及び近況調査は、右の QR コードをスマホ等で読み込んで、Google フォームにて回答 (9/10 締切) してください。9 月初のメルマガでも総会参加案内を送信します。
- ・オンライン参加でご連絡を頂いた方には、メールで ZOOM の案内を送付します。
- ・総会不参加の方も、OB 会活動へのご意見や近況報告 (次回会報に記載予定) などをぜひご連絡いただければと存じます。



②ハガキでのご連絡の方

- ・お手数ですがご自身でハガキを準備いただき名簿担当まで郵送お願いします (9/10 締切)。

《ハガキへの記載内容》

- (1) 期 (2) 氏名 (3) OB 総会への出欠について：出席する・欠席する
※オンライン出席には案内送信のため、OB 会へのメルアド登録が必要です (下記ご参照)。
(4) (OB 総会欠席は) 総会での議決権について：委任する・委任しない
(5) 下記名簿の変更情報、追加情報などありましたら記載ください。
・郵便番号、住所 ・電話番号、携帯番号 ・メルアド (メルアドをお持ちの方は是非ご記入をお願いします) ・勤務先・所属 ・近況、ご意見など

《ハガキ宛て先》〒273-0041 千葉県船橋市旭町 1-17-40 柏木修一 宛 (名簿担当)

※ OB 会へのメールアドレス登録方法

- ①ご自身のメールアドレスの登録状況は、下記名簿閲覧システムで確認できます。

名簿閲覧システム URL：<https://ywvmeibo.xii.jp/>

ユーザー名：ywvob、パスワード：m で始まる学生歌のタイトル

登録されていれば、OB 会からそのメールアドレスにメール配信します。

尚、名簿情報の変更を希望される方はメルアド登録依頼を名簿担当 (db@ywvob.com)

までメールをいただくか、右の QR コードの HP から記入をお願いします。

(パスワード：m で始まる学生歌のタイトル 21)

- ②メールアドレスが未登録であれば；

名簿担当までご連絡ください (連絡先：db@ywvob.com)。メルアドをお持ちで未登録の方は、メルマガ受信などで大変便利です。ぜひご登録をお願いします。



■ 2023 年 第 2 回役員会報告

幹 事 長 白木政隆 (21 期)

副幹事長 石川 真 (41 期)

2023 年 4 月 22 日 (土) 14:00 から、ハイブリッド(川崎市教育文化会館+Zoom)会議にて、2023 年第 2 回役員会が開催された。

【出席】リアル参加

嘉納(1)、吉野(2)、鈴木(9)、榎本(12)、竹村(13)、堀内(18)、磯尾(19)、西田(20)、石垣(20)、武藤(20)、白木(21)、成島(22)、親跡(34)、石川(41)、水内(63)

オンライン参加

小浜(17)、山口(18)、安武(20)、柏木(25)、楠本(28)、松本(29)

<現役 (リアル参加) >塩坂(65)、林(65)

計 23 人

【議事内容】

1. 会長挨拶

- ・まだコロナ禍の中だが、久々のリアル+オンライン会議が実施できた。
- ・7 期橋本さんから軽アイゼンの寄付があった。現時点では現役の装備は充足しているが、今後もテント・ザック等の寄付の依頼があれば協力をお願いしたい。
- ・OB 総会は日程が合えば横国 Day に合わせ、国大キャンパスで実施することを検討したい。

2. 審議事項並びに現役報告事項

①【幹事長】役員会規程改定案について

- ・役員会で円滑な進行をするために事前資料の提供や議事時間の目安についての項目を追加したい。
→承認

②【OB 小屋委員会】小屋規程改定案について

- ・「OB 小屋委員会規程」「苗名小屋利用規程」「苗名小屋保守交通費補助規程」について今まで委員会・役員会にて議論したことを踏まえ改定したい。→承認
- ・部外者の小屋単独使用についての是非については、OB 同行を使用条件とすることを継続したい。
→承認

③【副会長(サーバ幹事)】SAKURA サーバの管理体制について

- ・OB 会ではさくらネットと 3 サーバの契約をしている。コストの削減も含め契約集約化を検討したい。→承認
- ・集約する際にはメーリングリストの登録数を 10 件以内にすることが必要になり、活動に不都合が起きないようにする提案をメールアドレスのルール化も含めて、総務委員会とサーバ管理連絡会に一任したい。→承認
- ・統合時のドメインについては現在の OB 会と現役のドメインを継続したい。→承認
- ・小屋連絡等で対象登録者の変動が大きいものは、LINE 等の利用も含め HP 委員会等で提案を継続したい。→承認

④【現役】現役報告

- ・4/9 陣馬山、4/16 高尾～小仏城山、4/22 大山で新歓登山を実施した。1 年生は 10 名ほど参加しており、女性は 3 名参加した。今後の新歓で更に追加者が増えるかもしれない。Google フォームを使用して入部届を管理している。
- ・5/20～21 に青陵祭があり、けんちん汁を販売するので OB も是非立ち寄って欲しい。
- ・4/29～5/3 で現役も約 20 人で小屋整備に参加を予定している。
- ・(OB からの要望) 現役の T シャツを是非作成して欲しい。総会等で OB が購入できるように検討して欲しい。

⑤【会計幹事】予算関係の中間報告

- ・収入が予定より少なめだが大きな問題はない。小屋関係は冬期が終了したのでほぼ使い切った状態だが、今後追加購入等あれば費用措置を検討する必要がある。

- ・一般会計から現役のスキー用具購入補助費を捻出した。

3. 報告事項（審議事項として扱うものにはコメント記載）

【総務委員会】

- ・川崎在住者に川崎ふれあいネットの早期予約をしてもらい、Wifi 利用・30 名収容可能な会議室の確保を検討する。
- ・メルマガは改行・句読点の使い方を工夫し、スマホからも閲覧しやすいレイアウトを目指していく。
- ・会費納入状況を管理する会計幹事と会長を名簿閲覧可能者としていきたい。今後も必要なメンバーを拡大する予定で次回の役員会で再度報告をしたい。

【編集委員会】

- ・84 号の内容は7月の役員会で承認を得る予定。83 号の校閲履歴を残した Word を寄稿者にメール配布して、どんな校閲作業をしたかの内容の確認をしていただくことを実施したい。
- ・夫婦 OB 会員の方には会報を2通送付していたが1通だけの送付が簡単に出来るようになったため、作業を増やすことなく変更することができるようになった。

【OB 山行委員会】

- ・4/8 にコース下見を実施した。若干の危険箇所を見つけたため、次回の山行では注意して実施したい。

【OB 小屋委員会】

- ・雪下ろしを1～2月に2回実施した、3月も小屋利用があった。連休は現役が小屋入りする予定になっており、OB も順次小屋入り予定があり、現役移動のための車の融通も依頼したい。

【部史編纂委員会】

- ・未収録資料の入力作業を再開した。今後部室に入って作業する予定で、現役にはご理解をよろしくお願いいたします。

【HP 委員会】

- ・4月14日にハッキングされたとみられる現象が確認されたが、バックアップデータにより早期回復ができた。
- ・ハッキング対策はセキュリティソフトの導入やバックアップの方法も含め、別途サーバ全体の対策を組む必要があり、今後体制も含めて検討を進めたい。

4. 次回開催予定 7月1日(土)に変更する。 14:00～16:00（川崎市教育文化会館+Zoom 会議にて実施予定）

■ 2023 年 3 回役員会報告

幹事長 白木政隆（21 期）

2023 年 7 月 1 日（土）14:00 から、ハイブリッド(川崎市教育文化会館+Zoom)会議にて、2023 年第 3 回役員会が開催された。

【出席】 リアル参加

吉野(2)、鈴木(9)、山川(12)、榎本(12)、竹村(13)、白須(17)、磯尾(19)、西田(20)、石垣(20)、白木(21)、親跡(34)

オンライン参加

嘉納(1)、小浜(17)、山口(18)、堀内(18)、安武(20)、松本(29)、小野(34)、石川(41) 計 19 人

【議事内容】

1. 会長挨拶

- ・9/17（日）横国 Day（「ぼうさいこくたい」を同時開催）に OB 総会を実施したい。
- ・従来の横国 Day で実施していた基調講演等は「ぼうさいこくたい」のテーマが中心となる予定。

- ・交流会のイベントとして、ワンゲルによるみはるかす斉唱を希望することを大学側に伝えた。
- ・総会と並行して、今まで作成した写真パネルを中心とした展示会を開催する。
- ・7/11（火）17:00 から現役夏合宿に向けた激励会を実施する。

2.. 審議事項並びに関連報告事項

①2024 年度 OB 総会について

- ・第 8 回「ぼうさいこくたい（出展者は全国防災関連組織）」と同時開催の横国 Day にて総会を実施する。→承認
- ・9/17（日）当日は 10:00 から設営、11:00～展示会、12:00 より総会開催、14:30 より横国 Day の懇親会に参加する。また 16:30 以降別会場でワンゲルのみの懇親会を実施予定→承認
- ・総会は理工学部講義棟 A110 会議室（100 名収容）、教室手前のラウンジにて展示会を実施する。→承認
- ・総会でも決算報告は期の途中の為、仮の報告を実施後、10 月以降確定版を再報告する。→承認
- ・今回は大学からの補助金はなし。
- ・大学の総務企画部卒業生・基金担当より記念募金事業についてメルマガでの案内や総会でのパンフレット配布依頼の要請を受け、協力したいと考える。→承認

②OB 会報第 84 号案について【編集委員会】

- ・総会が 9 月に実施されることから、会報スケジュールを前倒しにする。7/21（金）原稿締め、8/6（日）入稿、8/19（土）発行・発送→承認
- ・ヤマト運輸との配送料交渉については継続中。

③現役作成の T シャツ購入による協賛について／激励会実施について【総務委員会】

- ・原価 4 千円（モンベル製。プリント代含む）の現役作成の T シャツを 1 着当たり 6 千円（寄付 2 千円）、2 着目 5 千円（寄付 1 千円）、3 着目から 4 千円（寄付なし）として OB 会員に購入を呼び掛ける。メルマガ等で募集をして総会時に代金を回収する方向で検討したい。→承認
- ・7/11（火）17:00 より横浜駅周辺で激励会を実施予定（現役は最大で 10 名程度参加）。OB 会参加者は会長が決定する。→承認

④HP 開発、サーバ管理について【HP 委員会／部史編纂委員会】

- ・(HP 委員会)新たにInstagramによる投稿を検討している。また、多くの OB 会員に新 YWVOB 会公式 LINE アカウントと友だちになって欲しい。友だちになるための QR コードの読み込み方法がわかりにくいので、メルマガでも説明を書くようにする。
- ・(部史編纂委員会)B 契約で展開していた歴史資料館の C 契約への移管が終了した。SSL 化に伴い URL も変更した。7 月のメルマガにて詳細を連絡する。移管に伴う文字化け等を発見した場合は連絡して欲しい。
- ・関連して歴史資料館や歩こう会、OB 山行等のメールが必要となるので、設定をお願いしたい。サーバ連絡会で協議後、メーリングリスト担当が一時的に転送メールアドレス作成の対応をする→承認

⑤役員人事について【会長】

- ・変更を希望する場合や新役員の推薦は早めに連絡をいただき、7 月下旬までには次期体制を固めたい。→承認

⑥現役の活動状況等【会長】

- ・1 年生が 30 名入部。女性もかなり入部している模様。2 年生が 12 名、3 年生が 10 名、4 年生が 5 名との状況。1 年生全員が山岳保険に加入したとのことなので、継続して部活動をする事が期待される。
- ・夏合宿は、赤岳、金峰・瑞牆、雲の平、立山、白馬、槍、北岳、鳳凰三山、富士山、妙高等を 7 月中に予定しており（8 月は未定）活発な活動計画になっている。

3. 報告事項（審議事項として扱うものにはコメント記載）

【総務委員会】

- ・次回役員会を 9/3（日）14:00～17:00、てくのかわさき+オンライン会議で実施したい。→承認
- ・OB より 8/29 東京駅ミッドタウン八重洲にて避難訓練の一環として、テント設営の実演依頼（2 名）があり、現役に応援を打診（交通費、日当あり）。

・14期OB小屋委員小口さんより、五八木荘の岡田究さんの七回忌にOB会の供花を奥様（岡田ひろ子様）宛に送っていただいた。OB小屋委員会で処理を実施（4,675円）。→承認

【OB山行委員会】

・10/14に金峰山を予定しており、塩山からバスチャーターを検討している。またコースの一本化も検討。

【OB小屋委員会】

・6月小屋行事を実施。現役も6/17-18に小屋入りをした。本日松本さんが小屋入りしてバッテリー交換とプロパンガスの発注を実施。
・7月は計画通り15-17にて小屋整備（草刈り作業中心）を実施予定。お盆周辺には小屋行事を実施予定。

【部史編集委員会】

・未収録資料について新たな資料があれば連絡が欲しい。
・先月歴史資料館の現役名簿で、慶弔更新の際に誤記載があったことが発覚した。大変申し訳ない。今後このようなことが無いように修正方法を見直しも含めて検討する。

【会長】

・先月河端先生を表敬訪問。OB山行にも参加したいとのことだった。

【HP委員会】

・現役のWebサイトについて、操作方法を塩坂主将を中心に現役に伝授する機会を設ける。

4. 次回開催予定 9月3日(日) 14:00～17:00（てくのかわさき+Zoom会議にて実施予定）

■ OB会費納入のお願い

会計幹事 吉野大次郎（2期）

会計幹事 松本 和之（29期）

OB会報第84号に同封の払込取扱票は、2024年度（2023年10月～2024年9月）OB会費等をお振り込みいただく用紙です。ゆうちょ銀行の各店舗窓口・ATMからお振り込みください。

年会費：2,000円（2024年度の年会費）

前納会費：10,000円（6年分（2024年度～2029年度）の年会費に充当）

寄付金：（一般、小屋）のどちらかを○で囲んでください

2024年度年会費納入済みの方を次ページに記載いたします。同封の払込取扱票は寄付金のお振り込みにご使用ください。

払込手数料は5万円未満の場合、窓口203円、ATM152円です。払込取扱票を紛失した場合は、ゆうちょ銀行備え付けの払込取扱票に、下記口座番号と加入者名を記入の上お振り込みください。

口座番号：00290-3-2419

加入者名：横浜国立大学ワンダーフォーゲルOB会

★他の金融機関からのお振り込み

他の金融機関からお振り込みいただけます。その場合、預金種目、口座番号は下記ようになります。手数料は各金融機関、振り込み方式によって異なりますが、3万円未満の場合は154～594円です。

銀行 名：ゆうちょ銀行（9900）

店 番：029

店 名：〇二九店（ゼロニキュウ店）

預 金 項 目：当座

口 座 番 号：0002419

カ ナ 氏 名：ヨコハマコクリツダイガクワンダーフオーゲルオーヒ

2024 年度 年会費納入済み会員リスト

期	会 員 名		
1	嘉納、佐藤、吉田、藤岡		
2	斎藤、多田		
3	渡辺、金田、腰塚、平林、芹沢、塩谷、井田		
4	永田（明）、横山、高田、原、谷		
5	谷合、三宅、金子、向井、諸角（壮）、矢島、中村、諸角（絢）		
6	密島、久野、岡田（光）、岡田（美）、松本、永井		
7	服部、井上、山田、松本、林、橋本、今井、久保木、坪、鈴木、小林（桂）、古宮		
8	平沼、畑中、小出、早坂（宗）、須藤、佐木、田中、早坂（富）、松本、綾部		
9	三浦、鈴木		
10	鈴木、下村		
11	丹羽、大森、榊原、桜井		
12	山川、榎本、左藤、武者、野口		
13	赤松、竹村、村松、太田		
14	鈴木、高木、吉田、上野、水本		
15	小泉、安藤、赤松、中島、萩生田		
16	清水、岩田、中野、板垣、佐藤		
17	石川、木村、白須、武田、渡邊		
18	植草（慶）、勝山、伊達、壺井、福田、堀内、山口（幸）、山口（貢）、渡部		
19	石井（忍）、石井（啓）、磯尾、岡本、小松、中島、林、笛木、南		
20	石垣、加賀、作山、玉木、西田、林、増田、武藤、安武		
21	河辺、坂元、白木、鳥井、長尾、藤倉、村石、村松、山崎		
22	立浪、谷内、成島、西田（晶）、山本、舟本		
23	伊藤、大津山、高山、中戸、森嶋、吉田（豊）		
24	鴨志田、北澤、酒井、田澤、成田、満留、山辺		
25	柏木、高野、永田、小佐野、古川、毛利		
26	大村、小宮、佐々木、毛塚		
27	遠藤		
28	梅田、楠本、松本、山本、和井田		
30	下出、竹澤、田中、服部、福田		
31	伊藤、岡野、松尾、松田		
34	井口、小野	35	富澤、土方
36	辻	37	佐々
38	細谷	40	村上
41	石川、笠原	44	小林
46	塩野	48	安田
51	中野	54	軍司
56	古矢、中山	57	百合野

■ 第 67 回 OB 山行報告（石老山）

OB 山行委員長 山口貢三（18 期）

【日 時】 2023 年 5 月 20 日（土）天気：小雨のち曇り
【行き先】 石老山（702m）
【実 働】 石老山入口バス停(08:45)→相模湖病院 →顕鏡寺(09:30～45) →融合平見晴台(10:30)
→石老山(11:05～35) →大明神展望台(12:35～45) →蓑石橋(13:20) →
プレジャーフォレスト前バス停(14:00～20)=解散

27 名の参加者を 4 班に分けて歩き出すところは霧雨でしたが、
顕鏡寺に着く頃には雨は止んだようでした。

巨岩と巨木のある門前で恒例の挨拶をすませ、班ごとに山に分
け入っていきました。この先も様々な巨岩を眺めながら山頂に到
着し、まだたっぷり水を含んだベンチを囲んで昼食をとりまし
た。誰かからヒルが出たと聞いたので、まさかと自分の首に手を
やるとヒルが取りついていました。その後も何人か被害が出てい
ましたが、雨上がりだったのでさもあらんとその時は軽く思っていま
した。山頂で記念撮影をし、更に尾根筋を進み下山しました。各班がバス停
に到着するやいなや、地面に血を吸ったヒルが転がっているのが発見され
ると、次々に足の血を吸われていたことがわかり、それから一時騒然とな
りました。

帰宅後に被害発見した方も含め約 10 名の方が大なり小なりヒルにやら
れましたが、特に健康上の問題はなかったようです。

因みにヒルに塩をかけるとポロリと剥がれ落ち、丸くなって動かなくなります。またマキロンやカット
バンですぐ処置ができたことも良かったと思います。ヒルが強く記憶に残る山行となりましたが、天候も
持ち直したので山そのものは楽しく歩くことができました。

次回 10 月 14 日（土）の金峰山・国師ヶ岳でまたお会いしましょう。

【参加者】1 嘉納、8 佐木、10 山本、11 安藤、12 榎本、山川、13 竹村、14 小口、吉田、15 中島、16 中
野、17 渡邊、小浜、18 植草夫妻、壺井、堀内、山口幸、山口、19 磯尾、20 西田、石垣、21 白木夫妻、
25 柏木、34 小野、親跡
計 27 名（期・名前）



■ 第 68 回 OB 山行案内（金峰山、国師ヶ岳、北奥千丈岳）

OB 山行委員長 山口貢三（18 期）

奥秩父連峰は学生時代に歩かれた方が多く、健脚者向けの中級山岳地帯でした。今回はその懐かしい縦走路を日帰りで楽しんでいただけるように、大弛峠起点に金峰山往復と国師ヶ岳、北奥千丈岳（奥秩父最高峰）の 2 コースを設定しました。A コースは金峰山までのロングコースとなります。この山のシンボル五丈岩目指して頑張りましょう。B コースでは国師ヶ岳や北奥千丈からの展望をじっくりのんびりと楽しめるでしょう。

初めての方も大歓迎です。皆さんの参加をお待ちしています。

【日 時】2023 年 10 月 14 日（土）

【行 き 先】金峰山(きんぷ 2599m)、国師ヶ岳(こくし 2592m)、北奥千丈岳(きたおくせんじょう 2601m)

【集合場所】JR 塩山駅南口 8 時 30 分までに集合後、ジャンボタクシーに分乗し出発します。

(北口ではありませんので、ご注意ください)

【コ ー ス】A:大弛峠(2360m)10:10⇒朝日岳 11:40⇒金峰山(2599m)13:30⇒朝日岳 14:50⇒大弛峠 15:40

標高差 239m(累積 570m) 歩行距離 8.0km 歩行時間 4 時間 30 分 体 ★★★

B:大弛峠 10:10⇒国師ヶ岳 12:10⇒北奥千丈岳 12:40⇒13:10 大弛峠

標高差 241m(累積 290m) 歩行距離 2.7km 歩行時間 2 時間 体 ★

【帰 路】大弛峠 16 時 00 分出発 塩山駅 17 時 30 分頃到着後解散

【参 加 費】約 4,000 円～5,000 円予定 塩山駅から大弛峠までの往復交通費及び山行費

【持 ち 物】雨具、昼食等 日帰りハイキング用具

【申込方法】9 月 30 日までに、OB 山行委員会にご連絡ください。

メールアドレス sanko-ywvob@ywvob.com

【申し込み時の留意事項】

- ・大弛峠への公共交通はなく、今回はタクシーを手配しますが、乗車人数に制約があります関係上、申し込み期限を厳守願います。
- ・大弛峠には遅くとも 16 時に帰着するよう歩きますが、特に A コースは、距離が長いことにご留意ください。
- ・山行時の万が一の事故においては、会員が助け合いますが、山行の安全は自己責任となります。



■ 苗名小屋便り

OB 小屋委員長 榎本吉夫 (12 期)

小屋開け行事を4月30日(日)～5月3日(水)に実施しました。滞在日はまちまちでしたが、参加者(以下敬称略)は、OB13期竹村、14期小口、18期堀内、20期石垣、西田、西田友人2名、63期水内と榎本の9名、現役は64期若林、西川、前田、細川、65期竹内、松田、桑田、金田一、林、馬場、谷口、森川、66期副松、富澤、福元、笠井、斎藤、祖父江、灘波の19名と久しぶりの大人数の小屋開けとなりました。まず、井戸水道の復旧、雪囲い板の取り外しと片付け、落葉松の間伐等を行いました。また、メンテとして県道から小屋入り口の駐車場の鎖をしっかりとものに作り直しました。昨年の砂利敷きにより、小屋までは4駆車で進入侵入可能で、2駆車では造林小屋までは入れるようです。ただし、天候によっては途中ぬかるみますので、要注意です。冬季の積雪により砂利が浮いていますので、入れる車は積極的に造林小屋まで入って欲しいのですが、「万が一」がありますので大人数の小屋入り時にトライしてください。保守のため、毎年予算が許せば砂利購入は継続したいと考えています。

現役は1日、黒姫山に出掛け、天候に恵まれ残雪の残る登山を楽しんだようです。OB各位は、野尻湖、苗名滝、妙高ビジターセンター見学や、仙人池散策、笹ヶ峰の夢見平散策、大谷ヒュッテ散策を各々行いました。夢見平では、雪も溶けて水芭蕉の群落が見られて感激したようです。

6月3日(土)～5日(月)に恒例の山菜採り行事を実施しました。参加者は、安藤(11期)、竹村、小口、堀内、榎本の5名でした。先発した榎本、堀内が4日午前中に夢見平の長い方のコースを散策し、最奥部の地蔵桂までの4時間コースを散策しました。安藤、竹村、小口がドンキホーテの俵ハンバーグを食してから小屋入りして、ちょうど夢見平散策から帰ったメンバーと合流しました。早速、小口が感よく根曲タケノコをいつもの場所で採取、5期諸角さんの指導のタマモノです！安藤、榎本、堀内も違う場所でタケノコ取りをしました。今年は雪が早く消えて、タケノコの旬はチョット過ぎたようです。その後、タケノコと鯖缶の味噌汁(長野地区の郷土料理)、タケノコの炊き込みご飯(お焦げ付き)を料理し、バーベキューで恒例の小屋食を堪能しました。5日は草刈りの他に安藤、堀内がナメコ菌の種駒を柳等の木を選んで、種付けしました。10月にはナメコ汁が楽しめる予定です！お昼はホルモン入り焼きそばを食べた後、竹村以外は下山しました。山菜採りには現役は参加しませんでした。6月17日(土)18日(日)に小屋入りしました。参加者はOB63期水内、現役64期西川、前田、佐藤、JIN、65期林、塩坂、金田一、66期富澤、副松、斎藤、片瀬、望月、67期紀田、山河、北岡の16名で、一年生も3人参加しました。天気が良かったので、庭にブルーシートを



広げて布団干しを行ったそうです。小屋の楽しさを経験して、今後の小屋の利用を期待しています。6月30日（金）～7月2日（日）に29期松本が小屋入りし、プロパンボンベ2台を新井の業者への充填依頼、小屋に置いてある廃バッテリー13台の内5台を処理業者に出しました。一人で重量物の搬送、ご苦労様でした。

7月15日（土）～17日（月）の3連休に第1回小屋整備として、安藤、竹村、榎本の3名で小屋入りしました。平塚発の榎本車で茅ヶ崎から圏央道、中央高速経由で小屋入りしましたが、三連休に加えて2か所の工事による車線規制（双葉インター、岡谷インター）により渋滞が激しく、古間の第一スーパーでの買い出し後、妙高高原に到着したのは夕方16時でした。地主の岡田さん宅に寄って、究さんの7回忌のお線香を上げさせて頂き、小屋入りしたのは18時前でした。夕食は岡田さんから頂いたモロッコインゲンを茹でたものと松山鯛めし（お焦げ付き）でした。蛍がバーベキュー場所方向に乱舞して、この時期ならではの楽しみを味わいました。蛍は日没して真っ暗になった後に出てきて、夜半には活動をやめるようです。翌16日は朝から作業を開始しました。安藤さんが持ち前の粘りで破損していた薪割り斧の柄の部分をつけ替え斧二本体制に、草刈りは短時間しかできませんでしたが、回転刃交換をした刈り払い機の切れ味は抜群でした。汗をたっぷりかいたのと翌日は早目に帰京する計画となりましたので、買い出しついでになえなの湯に行きました。

夕食は勿論、バーベキューです！ 新しくなった薪割り斧を使って試し割りして薪を準備しました。バーベキューの間には蛍は出現せず、片づけを終了後に蛍が飛び交っていました。

17日は前日小屋前まで車を下ろして積み込んだ8台の廃バッテリー（160kg）を載せて、10時頃小屋を出て帰路に着き、東京には15時台に到着して解散しました。



2023年 今後の山小屋予定

- | | | | |
|-----|-----------|-------------------|------------|
| 8月 | 第2回小屋整備 | 11(金)～15(火)（お盆週間） | 参加者都合に合わせる |
| 9月 | （第3回小屋整備） | 16(土)～18(月) | 整備必要時！ |
| 10月 | きのこ狩り | 7(土)～ 9(月) | |
| 11月 | 小屋閉め | 3(金)～ 5(日) | 学祭と重なる時は次週 |

*“小屋整備”とありますが、整備だけではありません！ 例年、散策と登山も実施しています。

小屋メールアドレス：koya-mail@yvwob.com

その 2 御嶽山と中央アルプスほか

フリー百科事典ウィキペディア（Wikipedia）によれば [1]、2014 年の御嶽山噴火は、9 月 27 日 11 時 52 分に発生した、長野県と岐阜県の県境に位置する御嶽山の火山噴火である。噴火警戒レベル 1 の段階で噴火したことなどの様々な要因により、火口付近に居合わせた登山者ら 58 名が死亡、行方不明 5 名、日本における戦後最悪の火山災害であるとされている。同記事に、10 月 11 日に撮影された画像が掲載されているので引用させていただいた [2]。

気象庁によれば [3]、有史以来、御嶽山が噴火したのは、1979 年 10 月 28 日早朝が最初で、前橋付近まで降灰、山麓で農作物被害があったということである。

YWV の第 1 回 OB 会合宿として御嶽山行きが実施されたのは 1967 年で、この山がずっと鳴りを潜めていた時期に相当する。しかし、それから 12 年後には有史以来の中規模噴火が発生している。したがって、ただ運が良かっただけと言えなくもないのだが、そんな事情は露ほども知らなかった参加者にとっては、ただただ楽しい思い出である。



噴煙を上げる御嶽山 [2]

実は、実施日やコースについては古い話なので一切記録がなく、参加者のお一人であった 2 期の宮崎紘氏に同じ応用化学科の先輩を頼るかたちでお伺いすることにした(2015.3.15)。宮崎先輩はストーマ装着というご不自由なお体にもかかわらず、いろいろとお調べいただき、1967 年 8 月 18 日から 20 日ということが判明した。OB 会の 1 次月例ワンダリングの記録なども別送頂き、感謝に堪えない。リーダーは 1 期の嘉納秀明氏ということも分かったので、コースなど詳細を問い合わせたところ、OB 会報第 8 号 [4] に記録があるというご連絡をいただいた。

第 8 号は第 1 回夏合宿特集で、A コース L 嘉納 (1)、宮崎 (2)、岩上 (2)、時田 (5)、密島 (6); B コース L 江崎 (3)、諸節 (3)、石田 (3) の合計 8 名の参加であった。コースは A 隊が開田キャンプ場を経て頂上往復、B 隊がいわゆる王滝コースで、頂上を極めた後、A 隊に合流するというものである。後者は王滝よりも標高の高い田ノ原までバスで入れるため、3 時間で頂上に達することが出来る。深田久弥によれば [5]、このルートはいわゆる信仰登山に多用されるため、俗化と呼ばれてアルピニストからは敬遠され、人間臭を嫌う人は開田からの登山道を選ぶという。

A 隊の記録は宮崎氏が OB 会報に詳細に記してある。出発は前夜発の夜行なので、17 日新宿駅に集合。年甲斐も無くショートパンツスタイルというのが宮崎レポートの冒頭にある。たまたま写真が残っていたので載せておく。出発に先立って大変だったのは食料の買出しだったそうである。嘉納、岩上、宮崎諸先輩が弘明寺商店街を回って歩き、8 名分の手配をお済ませいただいたと記述がある。テントも含め、各自 30kg 近いザックをパッキングされたということである。宮崎先輩の装備には後述するジンギスカン鍋という重い鉄板もバックされていたので驚きである。さらに驚いたのは、そんなに重いとは知らない後輩たちに、荷物の分担を依頼する素振りが無かったことである。ワングル発足当初は部員を大事にする思想が行き渡っていることはお聞きしていたが、ご厚情に感謝の念を禁じえない。18 日朝、開田行きのバスにゆられ、朝食を買い忘れたことに気付き、弁当を持ってきた 2 人分を 5 人で分けて食べる。途中の農家からキャベツ、キュウリ、トマト等を仕入れ、11 時過ぎに重い荷物を担ぎ上げてキャンプ場に向う（写真）。

到着は意外に時間が掛かって 13 時過ぎ。昼食はやきそば（写真）。2 張りのテントを設営し（写真）、すぐに夕食の準備。



年甲斐も無いショートパンツ？



久しぶりのキスリング姿



やきそば



テント設営

宮崎レポートには、嘉納リーダーが飯盒のご飯を美味しく炊いてくださったことが驚きと記されている。その後には、ジンギスカン料理の記述が続く。化学系の研究室では直径 30cm くらいの小さいドラム缶が、エーテルなどの揮発性溶剤の容器として沢山廃棄される。この上部を数 cm 切り取って小穴を沢山開け、適当なカーブが付くように絞り込むと、ジンギスカン料理用の格好な特製鍋が出来上がる。このいささか頑丈で重い鍋に肉やニンニクなどを並べて焼くのである（写真）。



特製鍋によるスタミナ夕食



御嶽山頂上で A 隊、B 隊合流

OB 会報にはこのニンニクの効能について密島氏の軽妙洒脱なレポートがある。『陽もかたむく頃、宮崎氏持参のスペシャルジンギスカン鍋を囲む。その臭いたるや猿も木から落ちるほど食欲をそそる。それもそのはず、ニンニクを充分に入れてあるのだから、皆それぞれにハーハー、フーフー言いながら舌つづみを打つ。昼間のバテぶりはどこへやら、諸氏喜々として鍋をつつく。そのうち、嘉納氏、丸のままのニンニクを焼いて口にほうりこんだ。岩上、宮崎氏もそれに続く。時田氏ややためらいがち。二つ三つとな

ると顔を脂ぎらせて水をガブガブやってハーハーと息をはく。その時突然某氏立ち上がり、ヒーヒー言いながら一座の周りを走り出した。いやあ、ニンニクの効果はすげえ、すげえ。一中略ー ニンニクの効果は翌日にもあらわれた。OB 会の古参を含めたパーティーが6時間の登りを5時間につめて全員頂上に達したという事実が如実に語っているではないか』というくだりである。

翌日(19日)は寝坊して出発が遅れたが、一同元気に朝露を踏んで登る。苔むした原始林もあったということで、開田コースは俗化されていないという深田久弥の記述に納得する。頂上では無事にB隊とランデブーし(写真)、共に下山して開田でのキャンプファイヤーを楽しんだ。

冒頭の噴火から約9年を経過した2023年7月29日、山頂付近の登山道の通行禁止が一部緩和され、王滝コースと開田コースがようやく繋がった。噴火口付近の規制は続いており、ヘルメット着用がもとめられている。

[1]

<https://ja.wikipedia.org/wiki/2014%E5%B9%B4%E3%81%AE%E5%BE%A1%E5%B6%BD%E5%B1%B1%E5%99%B4%E7%81%AB>

[2] <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=37148824>

[3] https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/312_Ontakesan/312_history.html

[4] OB会報第8号 1967年11月23日発行

[5] 深田久弥 日本百名山新装版 新潮社(1991)

御嶽山は中央アルプス(木曽山脈)と木曽川をはさんで対峙している。中央アルプスの百名山登山記録を下記に示す。

空木岳と木曽駒ヶ岳 2002.8.13 6:20 しらび平ー6:37-47 千畳敷ー7:24-8:10 標高 2720 地点で朝食ー8:56 濁沢大峰ー9:45 檜尾岳ー11:02-07 熊沢岳ー12:15 東川岳ー12:30-13:36 木曽殿山荘ー15:00-15:17 空木岳ー16:10 小屋着 2002.8.14 2:10 出発ー2:43 東川岳ー4:28 熊沢岳ー5:49 檜尾岳ー6:23-7:12 朝食ー7:41 濁沢大峰ー8:44 極楽平ー8:55 三ノ沢岳分岐ー9:23-28 宝剣岳ー9:55 中岳ー10:21-30 木曽駒ヶ岳ー10:53 宝剣山荘ー11:23-38 千畳敷ー11:55 しらび平ー12:24 黒川平

木曽山脈南端の恵那山。

2002.5.12 中津川登山口手前 4.4km 地点 5:28 出発ー6:36-40 登山口ー7:25-8:00 避難小屋ー9:04 野熊ノ池避難小屋ー9:07-12 野熊ノ池ー11:02-06 水場ー11:26-30 山頂避難小屋ー11:39-12:28 恵那山頂ー12:52-57 水場ー14:10 野熊ノ池ー2 回転倒。2 回目は小岩と一緒に転び、ズボンを損傷ー16:58 駐車場 山と渓谷社のアルペンガイド 16(1996 年版)には御嶽山、中央アルプスと共に白山が掲載されている。白山の記録は以下の通り。

1996.7.28 8:10 大白川避難小屋前駐車場発ー11:30 大倉山頂ー12:28-13:22 雪渓で昼食、ショウジョウバカマ咲いているー15:30-42 室堂 ハクサンイチゲ、ハクサンコザクラ、ハクサンフウロ、コイワカガミ、クロユリ、ミヤマキンバイ、ヨツバシオガマ、イワギキョウ、イワツメクサ、ハイマツ、オンタデ、コケモモ、ゴゼンタチバナ、ガンコウランなど見事ー16:37-45 白山御前峰ー16:55 高天原一室堂を経て大白川 19:48 着

御嶽山合宿は横国大卒業3年目の夏で、この頃はOB会としてのいろいろな行事に誘っていただいた。鎌倉の浜辺での写真が御嶽山の写真の付近に貼られていたので再録しておく。



■ 自由投稿②「山を繋ぐ楽しみ」

太田繁信（13 期）

もちろん、実際に繋げるはずはないので、地図上で自分の足跡を繋げるというまあお遊びなのだが、繋がる山が増えてくるとそれを地図で眺めるのが楽しくなってくるもので、若い時は可能な限り縦走形式、さらに繋げるためなら数時間の車道歩きもいとわなかった。「グレートトラバース」で有名になった田中陽希さんの「一筆書き」もこの極限のかたちと言えるだろう(あんな真似はできないけれど)。

さらに山ではないが、自宅と足跡を繋げるとちょっと大げさに言うと「数多くの山がこの瞬間にも自分とつながっている」と感じることができる。

ということで私が「繋がっている」山を時系列に従って書き記してみることにした。

1. 円海山(1960 年)

小学生(たぶん 4 年)のとき、どういういきさつでそんな話になったのか記憶は全くないのだけれど、2 学年上の兄とその友人との 3 人でできるだけ遠くの駅から歩いて家に帰って来よう、ということになった。予定では京急の金沢八景から相武トンネルを抜け上郷あたりから円海山をめざす。あとは下りだから何とかなる、ぐらいのものだった。

間違えて金沢八景ではなく金沢文庫で降りてしまったため余計に歩かなければならなかったが、3 人とも元気にトンネルを抜け円海山に登るあたりまでは順調だった。しかし、峰の急に下ったあたりから道に迷ったり脚に痛みが出てきたり、上大岡から弘明寺あたりで足を引きずりながら帰ったことを思い出す。それでも何とか家までたどり着き、わずか 150m の標高だが、最初の繋がる山となった。

その後、円海山から天園へのハイキングで鎌倉の山、さらに湘南二子山から三浦アルプス、畠山から大楠山と三浦半島の山々が現在は繋がっている。

2. 丹沢(1975 年 3 月)

「繋ぐ」ということを意識した最初はやはり丹沢である。ただ、20 代の前半までは自宅と繋ぐというよりほかの山域と繋ぐ意識の方が強く、煤ヶ谷から本厚木まで歩いたことはあったが、その後さらに平地を歩く気にはなかなかならなかった。

それがたまたま渋沢丘陵のガイド記事を山の雑誌で見かけ、地形図を出してみると南の曽我丘陵と繋げて歩けば平地歩きをしなくとも自宅と繋がることに気が付いたのだった。というのは YWV 入部後まもなく先輩(12 期)の岡戸さん、山下さんと清水ヶ丘のキャンパスから夜を徹して歩き小田原城まで行ったことがあったから曽我丘陵のはずれから国府津駅に下れば繋がることになる。

大秦野駅を歩き出したのは昼過ぎ 1 時近く、それで国府津駅に 6 時前には着いているのだから若い時はずいぶん歩くのが速かったことがわかる。

1971 年の春合宿で富士急の下吉田駅から杓子、石割、御正体を経て城ヶ尾峠で丹沢とつながっており、下吉田駅からは三ツ峠、笹子駅、滝子山、大菩薩と 1975 年までにはすでに歩いていたので大菩薩までがこのとき自宅とつながったことになった。

3. 奥秩父・奥多摩(1976 年 7 月)

1970 年 6 月の合宿は奥秩父が舞台、梓山から十文字峠、甲武信岳、雁坂峠、雁峠を経て、落合に下山、バスで奥多摩に出て帰宅した。

ところがこの落合からのバスはやがて廃止されてしまい、大菩薩から落合に下れば奥秩父と繋がるものの、落合からの交通手段が問題となった。

こうなると歩くしかない。黒川鶏冠山を回って落合に下った後、柳沢峠に登り返し大菩薩登山口まで戻る 3 時間の車道歩きをせざるを得なかった。

4. 八ヶ岳(1978 年 10 月)

ここまでは長時間の歩きさえ乗り越えればルートに問題はなかったが、奥秩父と八ヶ岳を繋ぐとなると問題が出てきた。平地を避けるとすれば、小川山から西へ稜線を信州峠さらに飯盛山まで行かないと普通

の登山道はなく藪漕ぎを覚悟する必要がある、さらに情報そのものが少なく、幕営適所や水場の有無などまるで分らない状況で取り組むしかない。

第1弾として小川山から信州峠まで1977年5月に1泊2日で挑んだ。1泊なら水場がなくても何とかなるからである。小川山から道のない稜線に踏み込むとやがてM大学ワングルのプレートが目に入り勇気づけられる。

稜線上は藪が深くとても幕営ができる状況ではないので、少し下った沢の源頭でツェルトを張る。翌日は藪の状況がよくなり、天気が崩れる前に信州峠の車道に下ることができた。

翌年(1978年9月)、野辺山駅から飯盛山を経て、信州峠。こちらははっきりした踏み跡があって楽に日帰り、飯盛山からは大学時代清里駅に下ったことがあり、清里からは真教寺尾根を登っているの、これで奥秩父と八ヶ岳が繋がることになった。

ところが自宅と、となると問題があった。というのは甲武信岳から国師ヶ岳の間を歩いていなかった(実は今も)ので金峰山、国師ヶ岳からは黒金、乾徳を経て徳和に下っている(1972年5月)ものの自宅とは繋がってなかったのである。当時はすぐに繋げようとは思わず、10月の登山も南アルプス北部の雨乞岳を目指していた。

いつものように新宿23時55分発の夜行に乗ったのだが事故があって塩山で運転打ち切り。大菩薩は何回も行ってるしどうしようか、となった時にこのことを思い出した。徳和までバスに乗り、大烏山から大久保峠と稜線をたどり、塩山駅まで歩く。これで大菩薩、ひいては自宅と繋がることに。

5. 箱根(1979年1月)

奥秩父や八ヶ岳より近い箱根だが繋がった時期は遅い。それは当時「日本横断」を考えていたため、八ヶ岳まで繋がれば、蓼科山、霧ヶ峰、鉢伏山を経て松本駅まですでに歩いていたのでそこから北アルプスをどうやって目指そう、という思いが強くあまり箱根に目が向かわなかったからである。

といっても2で書いたように小田原城までは足跡があり、湯本からは湯坂道などをたどり神山、塔ノ峰から外輪山の縦走などはすでに済んでいた、小田原城と湯本の間を歩くだけ。一夜城ハイキングのついでに実現した。

6. 南アルプス北部(1988年8月)

仙丈ヶ岳から甲斐駒、鳳凰三山を経て夜叉神峠まで縦走したのが、YWV入部前に兄弟で行った1969年8月のこと。夜叉神手前の南御室小屋に葦崎駅から甘利山、千頭星を経て登ったのが1976年5月。だからあとは葦崎駅までをどう繋ぐかということになる。4で歩いた飯盛山から信州峠への稜線の途中から南へ笠無、斑山と続くマイナーな稜線を2回に分けて歩く。踏み跡はあるようなないような面白い山歩きだった。

7. 北アルプス(1989年5月)

4で記したように松本駅まで1978年に繋がっていたのに、そこから時間が掛かったのは、北海道など他の山域の登山が多かったこと、北アルプスのなかで繋がっていない区間があってそちらを優先したことや北アルプスまでは平地を歩かざるを得ないため、気力がわかなかったためである。

それでも1985年に中房温泉から有明山に登り、黒井沢を下って穂高駅まで足跡が繋がり、北ア側はすでに日本海まで繋がっているの、あとは松本駅とどう繋げるかとなった。

そんなとき山の雑誌に長峰山、光城山のガイド記事が載った。大糸線の東に連なる山で、穂高駅から登ることができるようで、地図を見るとさらに南に芥子望主山などの山稜が松本駅の北まで続いている。縦走ルートはないようだが標高は低いし何とかなるだろう。

5月のため残雪豊かな北アルプスの稜線を眺めながらの里山歩き。これによって日本横断が完成。印象深い山歩きとなった。

8. 浅間山、荒船山など(1997年9月)

昔、新宿23時55分発の中央線夜行をよく利用したことは以前述べたが、中央線とともによく夜行列車を利用して登ったのが信越線沿線の山だった。当時のダイヤでは軽井沢駅に夜中の3時少し前に着くので、まだ暗い中出発し、北は浅間山や鼻曲山から浅間隠、南は八風山から荒船山と夜行日帰りの強行軍で登っていたのだ。

これらの夜行列車は 90 年代に入ると姿を消していく。信越線の場合長野新幹線の登場により横川から先は在来線そのものがなくなってしまう。この新幹線の登場が 1997 年、その記念というわけではないが、横川駅から旧中山道の山道で碓氷峠を越え軽井沢駅に下る山歩きを行った。

横川駅からは以前標高 200m 程の里山を繋いで高崎駅まで歩いたことがある。こうした里山歩きも私の趣味で高崎からは南へ本庄、寄居へ歩いたことがあり、寄居までは奥多摩から正丸峠、堂平山、長瀬に下って陣見、鐘撞堂山などをたどって歩いたことがある(何回かに分けてだが)。

ということで、浅間山などが繋がることとなった。ただ、できれば山を歩いて繋ぎたい。その夢を実現するうえで大きな力になってくれたのが 60 歳を過ぎて知り合うことになった S さん。奥秩父甲武信岳から北へ荒船山まで上信国境を何回一緒に登ったことか。

9. 南アルプス中南部(1998 年 8 月)

当時の勤務校の山岳部の夏合宿は北アと南アを交互に実施していた。この年は南アの番で、もちろん生徒を引率する以上未踏のコースは採用しないのが鉄則だが、このときは顧問 2 人で相談の上 2 人とも未踏なのは両俣小屋から北岳に登る部分だけでガイド記事もあるし、両俣小屋からの返事も「天気が悪くなければ特に問題なし」、ということで仙丈ヶ岳から両俣小屋に下り北岳に登り返して広河原に下山、という玄人好みのコースを採った。(現在は水害によりこのルートは荒れている)

私の方は両俣小屋へ下るルート自体が初めてで、もし事故があったとしたら問題視されても仕方がない。でも幸い雨も降らず(雨が降ったら両俣小屋から下山の心づもりではあった) 予定のコースを歩くことができ、これによって仙丈と北岳が繋がり、北岳からは塩見、赤石、聖、光、さらに深南部の池口、中ノ尾根、合地山から寸又峡、大無間や黒法師までが繋がり大いに満足する結果となった。

10. 天城山、達磨山など(1999 年 12 月)

天城山から天城峠まで同期の海保君、宇佐川君とたどったのが 1974 年、その後 1996 年天城峠から先の稜線を進み船原峠へ、そしてこの 1999 年の年末、船原峠から達磨山に冬晴れの富士を眺めに登り真城山から北の海岸へ、あとは舗装道路歩きだが伊豆長岡の駅まで歩く。伊豆長岡からはすでに沼津アルプスなどを経て、旧東海道までたどっており、少し前から始めた東海道歩きが自宅と伊豆を繋ぐことになった。

11. 富士山(2002 年 8 月)

日本一の山、富士山はやはりどうしても繋いでおきたい山である。ただ、ネックは自宅と繋げようとするとアプローチが「長すぎる」こと。富士山自体は 1975 年に吉田口から登り、御殿場口に下山しているがもちろん五合目が出発点で終着点だった。

若い時は海岸線から登る、という野望があったが、この年になるとそれは薄れ、それも吉田口五合目から下って富士吉田の浅間神社、さらに駅へという安直なルートをたどることとした。それでも御殿場口や富士宮口などの他と比べれば吉田口の五合目以下は「山道」の雰囲気の色濃く残り満足できる山旅であった。

12. 鋸山(2009 年 2 月)、清澄山(2009 年 1 月)

登ることは容易でも繋ぐうえでのネックは長い平地歩きが必要(富士山と同じ)なのが千葉の山である。どうせ歩かなければならないのなら房総半島一周をしよう、ということで 50 歳を過ぎたあたりから日帰りで気が向いたときに気が向いた箇所をランダムに歩いていた。近いはずの鋸山の方が清澄山より遅れるのは、鋸山付近の海岸は歩道も少なく、トンネル内は大げさに言えば「命がけ」なため後回しにしていたからである。

13. 乗鞍岳(2009 年 8 月)

北アルプスに分類される乗鞍岳だが、一般の登山ルートではほかの山と繋ぐことはできない。道路歩きが避けられないが少しでも短くするため、山頂から北東へ十石山を経て白骨温泉方面へ下る。さらに不通になって久しい上高地乗鞍スーパー林道を歩けば、車に煩わされることなく中ノ湯のバス停まで歩くことができる。中ノ湯へは焼岳(上高地から割谷山を経て登った) から下っているのでこれで乗鞍まで繋がることになった。しかし、スーパー林道の荒れ具合は予想をはるかに超えていて熊との出会い(幸い向こうから逃げていった)、崩壊箇所の高まきなどとてもものんびりとは歩けない道だった。途中蝶の採集に来ていた人

と出会ってお互いにびっくり。その人に言わせれば採集の穴場なんだそうで、崩壊箇所の高まきルート！も「我々が作ったようなもんです」とのこと。

14. 日光(男体山・女峰山など)(2013 年 10 月)

私の山登りの約半分は単独行、その最初が 1970 年 8 月の女峰山-男体山縦走だった。当時山岳夜行というものがあり東武浅草を深夜出発、終点の東武日光駅で仮眠ができて早朝から行動ができる、という金のない私にぴったりの交通宿泊手段があったのだ。まだ暗い中日光駅を歩き出し、霧降高原で朝を迎え女峰から大真名子、小真名子と縦走し、男体山との鞍部にある無人小屋で一泊、翌日男体山に登り中禅寺湖側に下った。そしてこの成功が私に自信をつけさせてくれたわけで私の登山の原点、と言ってよい。

この日光と自宅を繋ぐのは、山で繋ごうとすると大変で奥秩父から上信・上越の国境稜線を尾瀬までたどり、尾瀬から鬼怒沼、日光白根を繋ぐ必要がある。9 割近くは歩いたのだが、まだところどころ未踏の箇所があり実現していない。ということである程度平地歩きが入らざるを得ない。

10 で東海道歩きについて触れたが、奥州街道も歩いていてその途中古河付近から館林、間に 200m 前後の里山を繋いで桐生へ、桐生から鳴神山、根本山、地藏岳、古峰ヶ原を通して中禅寺湖南岸まで続く稜線がある。何回かに分け歩いたが、鳴神山から根本山を目指したとき日没のため三境山で打ち切り石鴨へ下ったため、そこから根本山までが実は今も繋がっていない。

しかし、石鴨から根本山登山口を経て、熊鷹山、野峰を登ったのが 2013 年。本当は稜線で繋げておきたいところだが、足跡としては繋がることになった。

15. 京都愛宕山(2013 年 11 月)

東海道歩きだが、どうしても山登りを優先するため、せいぜい年に 1 回。それも日帰りで細切れに実施するため名古屋まで繋がったのが始めてから 15 年も経った 2010 年だった。さすがに名古屋からは宿をとることにしてスピードアップ。2012 年に鈴鹿峠を越えて草津まで。ようやくゴールが見えてきて翌 2013 年草津から歩き京都までの東海道歩きを達成。このとき京都に宿を取り愛宕山、音羽山などを登り京都の山が繋がることになった。

16. 筑波山(2015 年 3 月)

筑波山そのものには 2000 年 8 月に登っているのだが、何せ関東平野の中にそびえる独立峰。自宅と繋げるのは結構時間が掛かるし遠回りのルートとなった。山もほとんどないので里山歩きというより田舎道歩き(できるだけ車の少ない道を選ぶ)で手賀沼湖畔や霞ヶ浦湖岸などを経て石岡駅、ここからは里山歩きで岩間駅へ(もちろん何回かに分けて歩いている)。昔(1978 年 2 月)岩間駅から難台山、吾国山を縦走し水戸線の福間駅に下ったことがあり。これで繋ぎのルートが見えてきた。

筑波山からは北へ加波山、雨引山と稜線が続く。これを 2 回それぞれ日帰りの山旅で水戸線の岩瀬駅へ。福間駅までは車道歩きで妥協して繋げることができた。

17. 金剛山、生駒山(2017 年 3 月)

関西の方にはポピュラーな山だが、関東からとなるとなかなか大変である。金剛山を含む縦走ルートはダイヤモンドトレイルと呼ばれるが、このトレイルを 2 泊 3 日で歩く計画があり、それに乗ることができたのが 2016 年。翌 2017 年個人でトレイル出発点の山の二上山の麓から法隆寺、信貴山、生駒山と歩き奈良まで(奈良・京都間はすでに歩いていた)の里山歩きを行った。

18. 六甲山(2017 年 12 月)

六甲全山縦走というのも、関西の方にとっては是非とも歩きたい縦走ルートではないだろうか。16 の後の目標は当然六甲を繋ぐことになった。実は六甲の東半分(摩耶山から宝塚)は 1997 年に歩いており、二上山からも新大阪駅までは様々な機会をとらえて歩き繋いでいたので、あとは宝塚から新大阪駅間。これくらいなら半日もあれば十分なので須磨からの西半分もあわせ 1 泊 2 日で歩いた。

19. 日光白根、尾瀬、上越の山(2018 年 6 月)

20 代の体力がピークの時期、無雪期の藪漕ぎ縦走を単独で行うのが毎年の恒例で、YWW での山行と合わせて、草津白根から日光白根まで足跡が 70 年代の終わりには繋がっていた。

日光白根からは湯元温泉に下っていた(14期の鈴木君がリーダー、ほかに同期の海保君、村松君、赤松君で尾瀬から縦走した)のだが、その湯元温泉の東に三ツ岳という道のない山がある。いつかは登ろうと思っていたが情報が乏しくずっと後回しにしていた。ようやく行く気になったのは2~3回ご一緒したことのあるN氏のガイドが雑誌に掲載されたのがきっかけだった。氏はマイカーを利用しているがそのガイドによれば取りつきは湯元温泉からさほど遠くない。ならば歩いて取りつき下山後は戦場ヶ原を歩いて中禅寺湖畔の男体山登山口まで歩けば足跡が上越国境稜線に繋がることになる。

ということで実行したのが2018年6月。山頂手前の急斜面にてこずったり、注意していても下山時にルートをミスしたりと少し苦労したが足跡繋ぎのこともあって充実感のある登山だった。

20. 中央アルプス(2022年6月)

中央アルプスを木曽駒から摺古木山まで兄、その友人と縦走したのは大学4年の夏だった。主稜線は片付けた、との思いからその後は長く足を向けていなかったのだが、再びこの地域に足を向けたのは2015年7月。木曽駒のさらに北に位置する経ヶ岳に知人からの誘いで登った。それから不思議とこの地域の山登りの話が舞い込むようになり、経ヶ岳と木曽駒の間に位置する権兵衛峠から木曽駒の縦走、逆に峠から経ヶ岳への縦走などを行っていった。南アルプスとの間にある戸倉山には昔登ったことがあり、伊那市の駅まで歩いてくださったことがある。そして戸倉山から仙丈ヶ岳の登山口である戸台方面への登山道が開かれていることを知り、山繋ぎの道が見えてきたと思ったのである。

問題は昔登った時にはあった戸倉山登山口へのバスがすでに廃止されていて車の免許を持っていない私にはアプローチが難しいことだ。

その問題を強引に解決したのが2017年8月。ネットで面白そうな報告を見つけた。それは入笠山から鹿嶺高原をトレイルランで往復したもので、それまで道がないと思っていた稜線に立派なトレイルができているということがわかったのだ。入笠山はそれまでに釜無山-富士見駅-小淵沢駅のルートですでに八ヶ岳とつながっている。そして入笠山にはゴンドラリフトがあるのでそれを利用すれば朝立ちでも余裕で鹿嶺高原を経て路線バスのある高遠まで歩き日帰りで帰ることが可能だろうと思ったのだ。

実際にはバスの時刻との関係もあったが、高遠からさらに伊那市の駅まで歩いてしまった。こうなればあとは経ヶ岳登山口の仲仙寺まで駅から歩けばいいことになる。平地歩きが多いことがちょっと引かかるが、戸倉山を経由しての山繋ぎは車の利用ができなければハードルが高い。結局こちらのルートで繋ぐことにし、伊那谷を歩いたのが2022年6月のことだった。

若い時はほとんど苦にならなかった長時間の歩行が、さすがに年齢を重ねると肉体的にも精神的にも辛く感じる時が出てきた。山行も昔のように駅から歩き出すことはあまりなく山仲間と車で登山口まで直行することが多い。ということで繋がる山もこれからはあまり増えないだろう。一応心づもりでは妙高の山小屋(妙高・火打・黒姫)が次の目標なのだが。

■ 再入会

編集委員長 石垣秀敏 (20期)

・安藤壽子さん(15期)が2023年6月10日に再入会されました。

■ 自由投稿③「羅浮山（ろーふーしゃん）初登頂」

福田幸治（30 期）

30 期の福田（旧姓 山田）です。会報 No.81（2022 年 9 月 10 日発行）で中国の近傍の山（亜公頂、標高 300m）を御紹介しましたが、その際に記載した広東省惠州市で最も高い 1296m の羅浮山（ろーふーしゃん）に、5 月 2 日念願の初登頂を果たすことが出来ました。標高こそ高くはありませんが、中々侮れません。出発地点の標高は約 200m 弱であり、一日で約 1000m 登り、1000m 降りるというかなりハードな行程（行程は約 8 時間）。本来は観光地的名所であるはずなのに、何故か我々のパーティしかない・・・この理由は後述。出発地点の天心湖脇からいきなり急登の階段が始まる。中国の携帯では山中でも携帯登山アプリが大活躍、街中のナビ並に経路を案内してくれる。こんな山中でも信号が繋がることや街中の買

い物も含め、全ての生活がスマホで成り立っており（逆を言えばスマホがないと生活できない）、この点は日本よりはるかに先進国である。このルートは人も少ないせいか、地面の根っこに時折足を取られたり、ちょうど目線に藪が茂り手も足も手も総動員しながらひたすら前に進む。8 時に出発し、12 時を過ぎても未だ頂上は見えない。標高 1000m を超えた辺り、ガスで視界は悪く、白雲が強く下から山肌伝いに流れ、稜線を追い越していく。体温の上昇した身体に湿った風が心地よい。時折、大きな岩肌が見え隠れし、幻想的な世界が目の前に現れる。中々日本では見ることのない景色、この静寂感本当に久しぶりだ。



1. 出発地点の天心湖



2. 羅浮山の岩肌



3. 山頂にて（一人）

13:15 羅浮山山頂到着（別名：飛雲頂、確かに来る途中いっぱい雲が飛んでいた）。なぜか大勢の人がいる。えっ何故、皆そんなに軽装なの？ どこから上って来たの？ それは下山ルートで判明。じつは我々が登ってきたのは完全なる裏ルート（どうりで人がいない訳だ）、表ルートは下からロープウェイで少し上がり、整備された登山道（というより全部階段）で殆ど観光地巡り的な服装で皆登って来ていたのだ。我々はこれを下山ルートとしたが、登りでは木の根っこや藪に気を使いながらであったが、下山は人の群れに気を使いながら、ひたすら整備された白い階段を約 1000m 降りるといってこれはこれでかなりハードな展開。また大きな岩の名所もあり、また一味違う雰囲気です山を楽しむことができた。下山後はソーセージと青島（チンダオ）ビールで乾杯。思いきり汗をかいいた後の身体の隅々まで染み渡るこの快感は全世界共通である。今回の山行を計画して頂いた社員の方に非常感謝（ふえいちゃんがんしえ）！！



4. 山頂にて（集合）



5. 下山途中



6. 下山後の乾杯

■ 現役部員の活動紹介

主将 塩坂昂太郎 (65 期)

今年度の始めから 7 月までの現役の活動について報告させていただきます。今年度は新歓に SNS も大々的に活用したこと、コロナ禍が収まり始めたのもあってか、1 年生だけでも 30 名、その他学年を含めると 35 名ほどの新入部員が加わり、部員は総勢 80 名近くとなりました。

この人数ですので、その山行計画も大所帯となり、山行計画自体も前年と比べてたくさん用意することとなりました。具体的な活動としては以下のようになります。

- 4 月 新歓大山、新歓陣馬山、小屋活動(小屋開き)、滝子山
- 5 月 塔ノ岳、青陵祭『国大山荘』出店
- 6 月 小屋活動、乾徳山、四阿山、川苔山歩荷、瑞牆・金峰山、赤岳、鳳凰

長くなってしまうので省略しましたが、新歓登山や滝子山、塔ノ岳、乾徳山、川苔山、赤岳に関しては参加希望者がどれも 30 名以上居たので 2〜3 回開催しています。



『国大山荘』は、5 月に大学で開催された青陵祭にワンダーフォーゲル部として出店した屋台です。けんちん汁を寸胴鍋で作り販売しました。採算がとれるか不安だったものの、ふたを開けてみれば大好評。大勢の部員が協力して頑張りました。

滝子山は、初心者でも登れる山として大勢の 1 年生が参加しました。3 年生の我々としても引率する経験



は浅かったため去年 OBOG の方と一緒に登ったことがあるこの山を選びました。

新入部員にとっては、装備や食事についての基本知識、沢沿いやちょっとしたガレ場などでの歩行技術などを学ぶいい機会になったはずです。

四阿山は、横浜から小屋まで向かう途中で登った山です。いつも通り、レンタカーに乗り込んだ我々は夜に横浜を発ち、登山口の駐車場で仮眠をとってから登山開始となりました。天気は素晴らしく、ぬかるみこそあったものの絶好の登山日和だったと思います。

その後は穴観音の湯に寄ってから小屋に向かいました。小屋では鉄板を使ってお好み焼きを作りました。今回が初的小屋活動という部員も多かったですが、和気あいあいと活動することができました。



今年の歩荷は奥多摩にある川苔山で行いました。途中までは林道ですが、後半は狭い急登もあり重い荷物を背負って歩くのが初めてだった1年にはいい訓練になったと思います。

人数が多すぎてバスに乗れず、臨時の便を一本出していただくこととなりました。そのバスもほとんど我々の専用バスのような状態となり、改めて部員の多さを実感しました。

瑞牆・金峰では合宿の訓練を行いました。一日目は富士見平に TENT を張り瑞牆山へ。二日目は富士見平から金峰山へ登りました。

泊まりの登山に必要な装備や、TENT の張り方、炊事の仕方などいろいろ教えることがあり、また自分も改めて学ぶことがありました。

帰りに寄った談合坂 SA では同時に赤岳に登っていた隊と合流するという珍しいイベントもあり、初めての顔合わせとなる1年生もいました。

今年の夏は合計13個もの山行計画を立てます。ほぼ毎週、同時進行で2つの山行があります、管理する側としては緊張感をもって挑む夏となりそうですが、部員全員が安全に山を楽しむことができるように頑張っていく所存です。

■ 観天望 (編集委員会から)

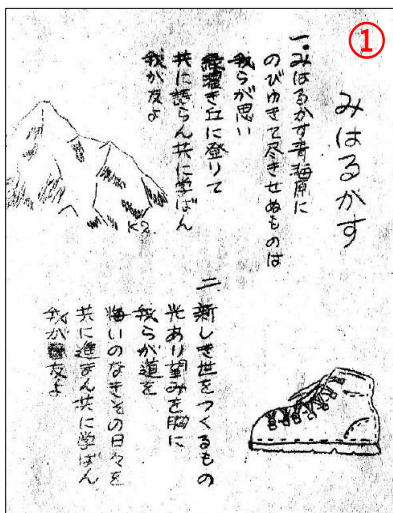
編集委員長 石垣秀敏 (20 期)

みはるかす

今年の OB 総会は久しぶりにオンラインではなく実開催の予定ですし、横浜国大キャンパスで横国 Day と同日開催になります。と言うことは、みんなで肩を組んで「みはるかす」を歌えますね。

さて、時々話題になる「みはるかす」の歌詞について調べてみました。下の①は筆者が大学2年生の時(1977年)に YWV 部内で配られた歌集(ガリ版刷りが懐かしい〜!)です。2番の歌詞は「悔いのなきその日々を」となっています。何の疑いもなくこの歌詞の通りに、長年歌ってきました。一方、②は横浜国大ホームページに掲載されている歌詞で「悔いのなきその日その日を」となっています。当然、大学が公式に出しているのですから、②が正しいことに間違いはないと思います。YWV 関係者だけでなく沢山の人の前で歌う時は、この「正調」で歌う方が良いでしょうね。

更に調べていくと、実はこの「その日々」バージョンは YWV 以外にも YouTube の動画やネット上の歌詞にもありました。また、歌詞だけでなくメロディーが多少異なることも分かりました。あっ、紙面が足りません。この続きはまた別の機会にお話をしたいと思います。



①
みはるかす 青海原に
のびゆきて 尽きせぬものは
我等が想い
緑濃き丘に登りて
共に語らん 共に学ばん
我が友よ

②
新しき 世を創るもの
光あり 望を胸に
我等が道を
悔いのなきその日その日を
共に進まん 共に学ばん
我が友よ



2019 年 1 月 第 54 回 OB 山行
百蔵山からの富士山
撮影 親跡冬樹氏(34)

皆様からの投稿をお待ちしています。自由投稿の原稿、写真、スケッチ等を編集委員会にお送り下さい。メールアドレス kaiho-ywvob@ywvob.com

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

YWVOB 会 会報第 84 号

発 行 : 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発 行 日 : 2023 年 8 月 20 日
発 行 責 任 者 : 会 長 西田 雅典(20)
編 集 責 任 者 : 編 集 委 員 長 石垣 秀敏(20)
編 集 : 編 集 委 員 武藤 功二(20)
編 集 委 員 楠本なぎさ(28)
顧 問 吉野大次郎(2)
印 刷 所 : 株式会社プリントバック 京都府向日市森本町野田 3-1